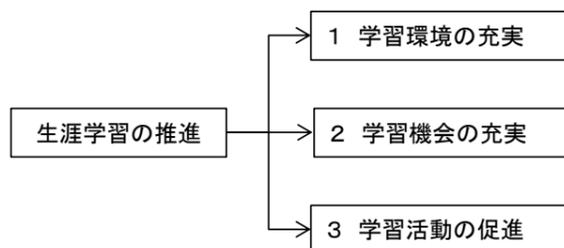


平成30年度大船渡市教育委員会の事務の執行状況等

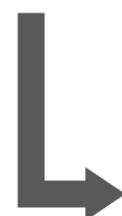
施策 1 生涯学習の推進



進捗度	状 況	成果指標	今後の方向性	
A	概ね計画どおり進捗している	当初見込み以上	○	現状維持
B	一部に進捗の遅れが見られる	当初見込みの7割前後	●	改革改善
C	全体的に進捗の遅れが明らかである	当初見込みの5割以下		

基本事業 1 学習環境の充実

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H29実績	H30実績	R2目標		
1-1-1 さんりく陶芸工房施設管理事業	市民、さんりく陶芸工房	施設を適切に管理し、良好な状態で利用に供する。	利用申請の受付、使用許可、施設の維持管理	①利用したことのある市民の比率	①%	①0.7	①0.6	①0.7	A 概ね運営管理は適切に行われている。	● 施設整備後相当年数が経過しており、修繕等を要する時期に来ている。しかしながら、利用者が限られていることから、施設の効果的な利活用の可能性を探るとともに、今後のあり方を検討していく必要がある。
1-1-2 博物館管理事業	博物館入館者(市民、碓石海岸を訪れる観光客)	快適な環境で気仙地域の自然と文化を学ぶことができる。	施設・設備の整備(修繕)、施設の維持管理、特別開館の実施、博物館無料開放の実施(碓石海岸観光まつり期間、東北文化の日等)、博物館施設の供用(市民ギャラリー・多目的ホール等)、博物館情報の提供(市広報、市ホームページ、事業案内ポスター等)	①施設設備の故障・不具合発生件数	①件	①9	①14	①7	A 概ね適切に施設管理がなされている。 施設の老朽化による修繕・更新についても計画的に実施している。	○ 施設・設備の長寿命化を図るため、公共施設等総合管理計画に沿い、施設・設備の修繕、更新、改修を計画的に進めていく必要がある。
1-1-3 博物館施設改修事業	博物館利用者(市民、碓石海岸を訪れる観光客) 博物館施設・設備	快適な環境で気仙地域の自然と文化を学ぶことができる。	東日本大震災津波映像コンテンツ(多言語)制作。シアター、民俗映像展示、受電設備、受水層、給水ポンプの更新。	施設設備の改修済件数	件	10	7	5	A 入館者の利用拡大を図るため、東日本大震災津波映像コンテンツ(多言語)を制作するとともに、シアター等の施設改修や老朽化による施設の修繕・更新を行った。	○ 施設・設備の長寿命化を図るために、公共施設等総合管理計画に沿い、計画的に施設改修を進め、施設機能の向上を図る必要がある。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H29実績	H30実績	R2目標	
1-1 学習環境の充実	市民 生涯学習施設	学習環境、活動の場が整っている。	①「生涯学習のための施設が整備されている」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①%	①21.2	22.3	①50.0	B 適切な施設の維持管理に努めているが、市民意識調査によると、生涯学習施設への満足度は、前年度比1.1%と微増ではあるものの、5割にも満たない。引き続き、学習環境の充実に向けた検討が必要である。

基本事業 2 学習機会の充実

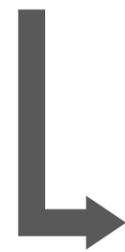
事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				名称	単位	H29実績	H30実績	R2目標		
1-2-1 地域社会教育振興事業	地区公民館、地域公民館	活発に自主活動を行うようになる。	11地区公民館に地域社会教育振興事業費補助金を交付、地域公民館に地域公民館整備事業費補助金を交付 ※補助金策定、申請書受付、交付、精算書受付	市民主体のまちづくり活動が活発であると思う人の割合(市民意識調査)	%	20.6	18.3	30.0	B 社会教育施設である地区公民館に対し、昨今、社会教育、生涯学習以外の多種多様な業務が求められる傾向にあるが、事業の実施により、各地区のコミュニティの中核である地区公民館の活性化を図り、地区住民の活動の場と機会を確保し、生涯学習の推進、学習機会の充実に図られている。	● 地区公民館においては、社会教育機関としての役割より、コミュニティ活動・市民活動の拠点としての機能・役割が拡大していることから、地区公民館のあり方や体制の見直し・構築など、地域づくりに向けた取組を進める必要がある。
1-2-2 ふるさと・おおふなお話大賞開催事業	大船渡市民等	おはなしづくりを通じて、応募者の郷土愛と豊かな心が育まれる。	ふるさとを舞台とした童話やお話を、青少年及び一般市民等から募集して、表彰を行うとともに、募集作品を作品集として刊行する。	応募件数(ふるさと・おおふなお話大賞)	件	26	15	30	B 複数の広報媒体を活用し、作品募集に係る周知に努めているが、年々応募作品数は減少傾向にある。	● 作品の活用など、事業の成果をより広く社会に還元する必要がある。 また、応募作品数の減少が続けば事業の維持が困難となるため、応募数の減少に歯止めがかからない場合、審査委員会では「縮小・休止・廃止も已む無し」との意見もあることから、休止・廃止も含めて検討する必要がある。
1-2-3 乳幼児学級開催事業	4歳以下の子どもを持つ親等	乳幼児へのより良い接し方を学ぶ	子育てや親子関係に関する学習機会を提供し、家庭教育力の向上を図るため、育児に関する講義や親子参加講座、親の心のゆとりを目的とした実技講座などの実施(6月から12月まで全12回、金曜開催)。	講座全体を通じての出席率	%	71	70	80	A 核家族化の進行に伴い、育児等の悩みを相談する機会が減少している等の理由から、本講座への関心は高く、また、受講生からは、大変有意義であったとの意見が寄せられており、大変好評を得ている事業である。	● 学習内容については、今後も有意義だと感じていただけるものを提供できるように工夫していく必要があるが、この事業を効果的に運営するためには、子育て支援担当部門との連携が必要であることから、将来的な事業整理も視野に入れた検討も必要である。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H29実績	H30実績	R2目標	
1-2 学習機会の充実	市民	①学習情報が容易に入手できる ②多様な生涯学習機会に恵まれている	「生涯学習活動の機会がある」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①%	①25.2	①26.0	①26.7	B 生涯学習関連情報が十分提供されていると答えた市民の割合が2割程度であることから、市広報はもとより、インターネットやSNS、各種情報媒体等を積極的に活用しながら、更なる情報発信を行う必要がある。 市民意識調査によると生涯学習活動の機会があると答えた市民の割合は、増加傾向にあるが、何か新たに生涯学習活動をやりたいと答えた市民の割合が約4割程度であることから、年々減少傾向にある公民館講座について、更なる市民ニーズの把握に努めるとともに、魅力ある講座となるよう内容や実施方法の見直しを図る必要がある。

基本事業3 学習活動の促進

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				名称	単位	H29実績	H30実績	R2目標		
1-3-1 社会教育関係団体 活動支援事業	社会教育関係団体	自主的な活動を充実、継続してもらう。	市地域婦人団体連絡協議会、市PTA連合会事業への協力、補助金の交付。大船渡ユネスコ協会への一部事務支援	①主催事業数 ②補助金額	①事業 ②千円	①9 ②227	①6 ②227	①9 ②227	A 社会教育団体の活動を支援することにより、各団体と市との連携を深めている。 また、補助金交付団体については、研修会への参加などに充てるなど、補助金目的に沿った事業費の支出をしている。	● 多様な市民活動が展開されていることから、市の各種団体の支援施策との統合や支援体制のあり方などの検討が必要である。
1-3-2 生涯学習のつどいの 開催事業	生涯学習・社会教育関係者 市民	近年の著しい社会情勢の変化に対応するため、生涯学習の重要性について市民の理解を深める。	事例発表、講演、社会教育関係施設(中央公民館、図書館、博物館)の活動の紹介・PR、地区公民館・地域公民館役員等への感謝状贈呈	①生涯学習推進のつどい参加者数 ②よりよい地域にするための地域活動に参加している人の割合(市民意識調査)	①人 ②%	①199 ②18.2	①300 ②18.2	①300 ②20.1	A 社会情勢の急激な変化により、自己の向上を目指す生涯学習の重要性が高まっていることから、つどいの開催により、生涯学習について、他団体等でのような取り組みがなされているかを知り、生涯学習について市民が理解を深めるキッカケづくりとなっている。 また、生涯学習関連の講座等に参加した方々のアンケートによると、参加者の多くが有意義であったと回答している。	● 市民の主体的な学習活動を促進するため、継続して事業を実施する必要があるが、社会教育関係者等の主体的な参画方法について、検討する必要がある。
1-3-3 地域再生支援文化 活動事業	各開設地区住民	学習活動を通じて、地域住民相互のコミュニケーションが促進され、復興への意欲を育む。	東日本大震災によりコミュニティの再編等が進む中で、地域住民相互のコミュニケーション促進と生きがいづくりの一助とするため、市内11地区において、生活に役立つ知識や文化・教養に関する講座を開催(各4回程度)。	①延べ講座参加者数 ②学習に参加して有意義だったと感じた参加者の割合	①人 ②%	①840 ②96.0	①827 ②92.6	①1,000 ②97.0	B 学習に参加した方からは、講座内容等について概ね好評を得ているが、年々講座参加者の延べ人数は減少傾向にある。 H27: 1,477人 H28: 865人 H29: 840人 H30: 827人	● コミュニティの再編等の進行に伴い、地域の特色にあった学習メニューを提供できるよう、地区公民館との連携を深めながら事業を継続していくが、復興期間の終了に向けて、事業のあり方等について関係課等と協議を進める必要がある。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H29実績	H30実績	R2目標	
1-3 学習活動の促進	市民 芸術文化団体	活動の成果を発表する	①市民芸術祭出品数 ②市民芸術祭出演者数	①点 ②人	①2,782 ②3,009	①2,708 ②3,079	①3,500 ②4,000	B 芸術文化活動の最大の発表機会である市民芸術祭については、出品数が平成29年度比3%減、出演者数は2%増となった。 出品数が減少した要因として、市内地区公民館等で実施する文化祭や他行事との日程の重複等が考えられることから、新たな芸術文化団体の掘り起こしを行うとともに、出演者や出品数を増やすための幅広いPR活動を展開しながら、芸術文化に対する意識の高揚を図る必要がある。 また、市民芸術祭に携わる関係者等の高齢化、参加団体等の後継者不足、市民芸術祭に対する若年層の関心の低さも要因と考えられることから、小・中・高校生など若年層が参加できるような魅力あるまつりの演出を図るとともに、各団体等と協力を図りながら芸術文化への関心と理解を図っていく必要がある。

□総括

施策名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H29実績	H30実績	R2目標	
1 生涯学習の推進	市民	主体的に学ぶことを通じて自己実現を図る	①「日頃、何らかの学習活動に取り組んでいる」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①%	①41.3	①31.0	①45.0	B 主体的に学習に取り組む市民が3割程度で、前年度に比べ減少傾向にあり、また、「学びの成果を発揮する機会が得られている」と感じている人も減少傾向にあり、今後も学びの成果を地域で活かすことが重要であることから、地域内での情報共有や意見交換等を行うなど、一人ひとりの持つ有意義な経験等を地域で共有する仕組みを形成していく必要がある。
			②「日頃、学習活動に取り組んだ成果を活かしている」と答えた市民の割合(市民意識調査)	②%	②22.0	②15.2	②45.0	

<課題>

- ・生涯学習関連情報の効果的な発信
- ・幅広い世代の関心を呼ぶニーズに沿った魅力的な学習プログラムの検討
- ・生涯学習とまちづくりの連動を実現する体制の整備・強化
- ・芸術文化の鑑賞機会の提供と広く芸術文化に親しむことができる環境づくり
- ・芸術文化活動を担う人材の育成